

| | |
|------|--------------------------------------|
| 会議名 | 令和元年度第2回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 |
| 開催日時 | 令和元年10月17日（木） 午前10時00分～11時40分 |
| 開催場所 | 坂出市教育会館 2階大会議室 |
| 出席委員 | 長谷川 修一，木原 光治，中橋 恵美子，新田 一也，林 美模，古田 桂子 |

会議の経過および発言要旨

1. 開会

（都合により坂出港振興協会の國時副会長は欠席）

2. 議題

（1）第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について

●会長

それでは、議題（1）第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について、事務局より説明願いたい。

●事務局

（資料 第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案1～14Pにより説明）

●会長

いま説明のあった1の基本的な考え方について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

坂出市への人口の流入について、駅の近くにマンションが多く建ったことが影響していると思う。これは民間の力によるもので、市がコントロールしたものではなく、いつまで

も建設が続いてコンスタントに人が増えるということにはならないと思うが、人口の予測をする際に、マンション建設以外に考えられる人口増の要因があれば教えてもらいたい。

●事務局

前回の会議で委員から質問があったが、駅の近くにマンションが建設され、そこに住む市外からの転入者数がどれくらいかということについて、すべてのマンションについて把握しているわけではないが、1棟のマンション約100人程度のうち3割程度が市外からの転入者ということが分かっており、委員ご指摘のとおり、マンション建設が続いたことが一つの要因とは考えている。また、マンション建設がいつまで続くかは予測ができない部分であるが、市の取組としては、まちなか中高層住宅の建設に対して補助をしていることによって、マンション建設を促進している。

また、郊外では土地開発が進んでおり、民間資本による開発ではあるが、いずれにしても民間が投資しやすい環境づくりを行政としては進めていく。

●委員

年齢別の人口動態について、30代が最も減っており、40代は逆に増えているが、要因については、この年代の減少は、会社を引き継ぐ方がいなくなるという問題になっている。

●事務局

具体的に、人数の推移について分析できていないため、次回、何らかの分析をするための資料があればお示ししたい。

●会長

今の議論との関連で、自分が高校生ワークショップを提案したのは、人口の社会減の1番の要因は、高校卒業時の進路であると考えからである。ただ、そのことがデータとしてははっきり出ていない、例えば13ページの表で、10代の人口はどんどん減少しており、一方で次の20代はそれ以上に、はるかに減少している。おそらく、高校卒業時に市外に出て、帰ってくる人が少ないのだろうと考えられるが、いろいろな要因が入っているものと思われるため、その点も含めて、人口減少の要因を分析したほうが良いのではないかと。また、社会増となっている平成29年度、国外からの転入者が254人、国外への

転出者が185人ということは、外国人だけで約70人の転入ということで、これを除けば、一見すると11人の社会増だが、全体としてはマイナスということとなり、全体の結果について一喜一憂するのではなく、その中身、データを分析して、問題点と対策を考えないといけない。次回、可能であればお示しいただきたい。

●事務局

まず、高校を卒業して大学に進学する場合、住民票を移さないかたが多いということが現実的にはある。仮に都市部へ転出して大学へ進学したとして、その後そこで就職してはじめて住民票を移す場合が多いものと思われる。住民票だけの動きでは現実の動きが掴めないという部分があるため、次回までに、各高校に卒業生の進路について問い合わせたいと考えており、どれだけのデータを出してもらえるか分からないが、何らかのヒントを得ることはできると考えるので、次回にはお示ししたい。

●委員

自分のところで直接関わっている事業のKPIの数値目標について、実績ベースに合わせて目標値を当初より上げられており、目標値が上がったこと自体は良いが、そのお知らせがなかった。自分のことだけではなく、関係する事業者や部署にKPIの数値が適切に伝わっているかどうか、事業をするときに数字を意識しながらやるかやらないかで全然違ってくるものであり、知らないところで目標値が定められており、やっている側が聞いていないということがある。市役所内でも、担当課の管理職だけではなく担当者にも、前年度の実績や次からの目標値を周知することをしてもらいたい。

●事務局

その点については、担当課の管理職だけではなく担当にも伝わるようにしてまいりたい。

●委員

女性の活躍について、審議会の委員に占める割合や管理職の割合など、市の努力である程度コントロールできる項目で達成度が悪いのは、担当課の目標達成への意識の欠如と考えられるので、担当課が数値を適切に目標立てて、意識を持って取り組むようにしてもらいたい。

●委員

労働団体として、坂出の加盟組合の企業のうち、坂出在住者がどの程度いるのかを今年度調査している。個人情報の関係でどこまで出してもらえるか分からないが、12月までにまとめてもらうよう依頼している。坂出在住者が何人いるのか、データが出てきたらこの会議で出していきたい。

●会長

続いて、15ページからの基本目標と施策体系、次期総合戦略の骨子について、事務局より説明をお願いします。

●事務局

(資料 第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案15P～により説明)

●会長

いまの事務局の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

16ページの市立病院の跡地の利活用については、いつまでに行う、という期限はあるのか。また、先日の高校生ワークショップで感じたことだが、駅のサービスセンターの利活用を挙げると、ここをどうすればよいか、という意見交換では、高校生から活発に意見が出されたのは、イメージがわきやすかったからではないかと感じた。例えば、サービスセンターや市立病院跡地以外に、坂出市内で、こういう場所はこんな使い方をされている、というような他の例があれば教えてもらいたい。

●事務局

市立病院跡地については、現状では白紙であって、いつまでを目標に、というものはない。サービスセンターについては、利活用の方向が決まれば、あまり実現までに時間はかからないものと考えている。それら以外で、具体的に市内の施設や土地を利活用した例は今のところはない。ただ、病院跡地については、どのような事業をするにしても、相当に大きな事業となってくると思われるため、色々な人の意見を聴きながら進めていくことになっていくものとする。高校生ワークショップにおいても、サービスセンターの利用に

ついて、我々には思いつかないような利用法が意見としてあったため、そういった意見も参考にしていきたい。

●委員

17ページの具体的な事業「関係人口の創出」について、もう少し違う表現がないものか。また、19ページの「誰もが活躍できる環境の整備」について、今は多様性の時代で、垣根のない、という意味だと思うが、誰もが、というよりも、より分かりやすい表現にできるのではないか。

また、健幸という表現は見慣れないが、坂出市の造語なのか。

●事務局

平易な表現については、検討したい。「健幸のまちづくり」は、造語というわけではなく、平成29年ごろから使われている言葉である。

●委員

高校生のワークショップは非常に良かったが、まさに同じ日に県内の他市では、高校生だけでなく、大学生も含めた若者が多数参加したワークショップを開催していた。また、その様子をSNSにたくさんアップしていた。その市は、若者のワークショップの実施を、予算を付けて、NPOに委託して定期的に、継続して行っている。市の計画を立てる直前に言い訳程度にするのではなく、また5年後に見直しを行うと思うが、計画策定のスケジュールに若者のワークショップを組み入れることを提案する。高校生は人生経験がまだ浅く、坂出市しか知らないというところもあり、大人が気の付かないところにも気付かせてくれる部分はあるが、大人を驚かせる部分は少ないものと考えてるので、例えば大学進学で県外に出た学生が帰省するタイミングに、大学生も含めて行うとか、20代までの対象でワークショップを続けていくとか、スタンダードに若者のワークショップを行っていくようにしてもらいたい。

また、今回は生徒会の生徒が多かったのかなと思ったが、自主的に、自然発生的にワークショップに来てもらえるようになればいいと思う。市民サービスセンターの利用法についても、例えばひきこもりで学校に行けない、コミュニケーションが得意でない子たちが、サービスセンターで集まりたい、そういう若者の意見をあの場で拾うことは、あの場では限界があったと思うが、キックオフイベントでとても良かったので、そういう点もバー

ョンアップして継続していってもらいたい。

一方で、高校生のワークショップでは、彼らが坂出にシビックプライドを持っていることを感じた。というのが、お祭りのことを言っている学生が何人もいて、祭りがあるから坂出が好きと言っている子がいた。市外・県外に出てみると、祭りがある地域とない地域とで温度差があって、坂出市内にいと当たり前のことが、外に出てみるとそうでもないことがある。若い人が集まって太鼓台を担ぐというのは大事な文化だと思うし、骨子案に書くときにも、太鼓台を残していくとか、継承していくということを入れていけば、高校生の意見を反映できるのかなと思う。

また、SDGsのことが近年、よく言われるようになっていて、総合戦略でも、5年後にはスタンダードになっていると思うが、今見直しを進める中で、他市町の状況も見ながら、SDGsの視点を盛り込んだほうが良いのでは。

最後に、坂出のイオンはどうなるのかについて、市民の間でも関心が高くいろいろ話題になっていて、民間のことでどうしようもないかもしれないが、言える範囲で教えていただきたい。

●会長

4点あったが、まずワークショップの継続について、良い意見を出してもらうことが目的ではなく、とにかく関心を持ってもらうことを目的として実施してみるのがいいと思う。この意見については、私からもお願いしたい。

●事務局

まず、ワークショップについて。今回は初めての試みであり、会長と相談しながら準備を進め、結果的には実施して良かったとは感じているので、できれば継続して取り組みたいとは考えるが、ただ、方法や対象、どのようなテーマでやっていくかについては、もう少し時間をかけたい。

●委員

年に1回は必ず実施するとか、次の会議で言ってもらいたい。市の職員も、20代の職員は参加してもらおうとか、決めていけば良いと思う。民間活用や、市の若者のチームを使うとか、方法はいろいろとあると思うので、前向きに検討してもらいたい。

●会長

総合戦略は、どういう戦略で進めるか、ターゲットをどこにしぼるか、それで相手の陣地をどう崩すかということで、どこが効果的なターゲットかというところ、そこが私は直感的に、高校生の進路がキーになると考えている。今の高校生も大事であるし、出ていく高校生に戻ってきてもらうことも大事であると思う。

学校では、普遍的な価値しか教えないが、少なくとも3割は、ローカルな価値を身につけておかないといけない。例えば、総合戦略骨子案の中に、坂出の魅力発信とあるが、あまねく、日本、世界に対して魅力発信するのではなく、一番魅力を感じてもらいたいのは、住んでいる若い人たちではないか。また、出前講座など、いろいろなメニューが入っているが、ターゲットとしてフォーカスするのは若い世代だと思う。彼らを対象に考えるのが最も効率的で、彼らが戻ってくるように種をまくことが重要ではないかと思う。

●事務局

地域の価値を残していくという部分については、検討して次回お示ししたい。

SDG sについては、環境保全であるとか、概念的には、考え方としては盛り込んでいるが、SDG sという単語自体は入っていない。基本目標3に、持続可能な地域づくりという施策の方向性は入れているので、考え方としては入っていると思うが、再度検討したい。

イオンのことに関しては、民間企業のことであるので、この場では差し控えたい。ただ、具体的に、閉めるというようなお話は何っていない。

●委員

総合戦略は第一期が終わり、来年度第二期が始まるということだが、議会に対してはどう説明しているのか。予算が絡む場合には議会の承認が必要だと思うが。第一期の策定の際には、最初のころは議員の参加もあったものと思う。

●事務局

総合戦略の策定に関しては、議員は元々関与していなかったものとする。本推進会議の中で素案を取りまとめていただき、その後には議会に説明を行っていく予定としている。また、パブリックコメントも実施し、修正が必要な場合には修正を加えていく。

●委員

議会もそうだが、坂出市民が一体となって総合戦略を考えていかないと、いくら素案がうまくできても、それを実行に移して最終的に人口が増えないと意味がない。そのことを、市職員や我々もそうだが、議員も一緒に考えていかないといけないのではないかと。

●事務局

当然、戦略を実行に移すには予算が必要になるので、3月議会において、議会にも説明を行っていく。

●会長

パブリックコメントについては、どれくらい意見が出るものなのか。

●事務局

案件にもよるが、あまり多くは寄せられないのが現状である。

●会長

パブリックコメントを募集しても意見があまり来ない、この関心がないという状態が一番良くない。坂出市、このままでは大変だと市民にも本気になってもらわないと、達成できないのではないかと。そのあたりをもう少し、アイデア出ししたほうが良いと思う。

●委員

18ページの基本目標2 子育て世代に選ばれるまちづくり のところで、(2) 安心して子どもを生み育てられる環境づくり、または(1)の中に、関係機関の連携強化、のような言葉を入れてもらいたい。子どもに関わる分野は、福祉、教育、子育ての分野が縦割りになりがちの中で、今は子育て世代包括支援センターができて、現場レベルでの連携はできてきているので、一人の子どもも取り残さないために、関係機関が連携を強化するという意味合いの表現があれば良いと思う。

●会長

本日の意見を踏まえ、第3回会議では事務局より総合戦略の素案を提示していただく。第3回会議の日程については、11月下旬ごろを予定しているが、今後事務局が調整を行

い，決定し次第通知する。

3. 閉会